

多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン
取組の概要と推進委員会からのコメント

整理番号	3
------	---

申請担当大学 (連携大学)	東京大学(計6大学) (横浜市立大学、東邦大学、自治医科大学、北里大学、首都大学東京)
プログラム名	がん最適化医療を実現する医療人育成
事業推進責任者	宮園 浩平(東京大学医学系研究科長)

取組の概要

近年のめざましい医学の進歩は、がん医療に新たな技術革新をもたらしているが、その一方で、それらが医療現場で個々の多様な状況に応じて適切に実践されているとは言い難く、それに対する社会からの改善要望も増大している。本事業では、このようながん医療の課題を解決するために人材不足が顕在化しつつあるゲノム医療、希少がんおよび小児がん医療、ライフステージ対応がん対策について、これらの各領域で既に先駆的な取組を行っている6大学が、その基盤を活用して、全国のモデルを形成すべく、大学連携教育を発展させる。それとともに、これら以外の新たなアンメットニーズに対応できる能力を有する人材も育成する。これらの取組においては、多職種連携によるチーム医療を基本とするとともに、医療全体を俯瞰できる能力の涵養も重視し、多様かつ複雑ながん専門診療が一人一人の個々の状況に応じて最適化される、全人的医療の実現を目指す。

推進委員会からのコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等

- 参加する連携大学それぞれの特徴を生かした取り組みとなっており、参加大学の役割分担が整理されているなど、各大学の研究・教育基盤を効率的に活用する計画となっている。
- 人材育成の方針については、新しい時代のテーマである先進的なゲノム医療とがん医療における普遍的テーマである全人的医療の実践に必要な知識・能力を習得することをバランス良く修得することを目指していることや、がん治療のみならず地域医療の観点が盛り込まれている点が評価できる。
- プレジジョン・オンコロジーという概念を単なるゲノム医療の最適化にとどまらず、幅広いがん医療を対象とする点やラジオゲノミクスの取組を推進することは、先進的である。
- 患者団体等と連携した運営体制や教育セミナーの開催など、がん患者や家族の視点を反映させようとしている。
- 特徴の異なる大学が参加する事業であるので、事業成果を各大学で共有し、それぞれの大学でのがん医療実践の向上に繋げる工夫が必要である。
- ゲノム医療を臨床の現場において支える医療人材が国内では不足している現状を踏まえ、ゲノム医療に関わる医療者の養成で実績を有する参加大学の経験を生かし、インテンシブコースなどにおいてより多くの人員を養成することが期待される。
- 全人的医療実践のための多職種連携を担う専門医療人養成の取組が少ないこと、事業担当者に小児がん・AYAがん・希少がんに対する専門家が少ないことから、対策の検討が期待される。
- ライフステージ領域において、将来を見据えた難治性苦痛の緩和、サバイバーシップなどの焦点化された先駆的な取組が乏しいことから、対策の検討が期待される。